

I 実践

1 あいさつ運動の実施

本校では、月初めに朝のあいさつ運動を生徒会が中心になって行っていた。

基本的なあいさつを進んで行い、よりよい人間関係を築きあげようという運動である。また、教師や生徒会だけでなくPTAも運動に参加し、行っていた。

あいさつ運動の様子



2 道徳の授業における実践

一人一人の人格を大切にしようとする態度を養うことにつながる道徳の授業、差別や偏見が誤りであることを正しく理解し、誰もが生きがいのある生活が送れることを実現しようとする気持ちを育てる道徳の授業に取り組んだ。

また、授業だけでなく、朝の会、帰りの会などの時間に、清掃などを頑張って取り組んでいる生徒を賞賛する場面をもうけるなど、一人一人が学級内での価値を見いだせるようにしてきた。

3 社会科の授業における実践

1 学年では、1 学期に歴史分野で身分の誕生を学んだときに、現代における人権について考えて学習した。平等な社会であると考えられている現代でも差別がみられ、生徒たちにとっても問題である学校内でのいじめや言葉の差別を考えていった。生徒たちも人権に関する資料を集め、学習を進め、まとめとして人権作文を書いていった。

2 学年では歴史分野で「江戸幕府の成立と鎖国」の場面で当時の生活と共に身分制度や差別について考えていった。

3 学年では公民分野で「基本的人権」の学習で人権問題についての話し合いを行った。

4 人権メッセージの全校参加

人権について全校生徒が考えるために、人権メッセージの作成を全校生徒の夏休みの課題とした。その作品をもとに学級活動で話し合うなどの材料にして活用を図った。

また、人権コーナーに作品を展示したり、人権週間には、給食の放送で作品を読み上げたりするなど、様々な考えを生徒に伝えた。

5 生徒指導における実践

Q Uテストや毎月のアンケートをもとに学級内の様子を分析したり、生徒理解に努めたりした。また個別面談をもうけるなど、生徒の状況に応じて対応を進め、学級経営を行ってきた。

6 成果

- (1) あいさつ運動を行ってきたことにより、あいさつが自然に行えるようになってきた。教師と生徒間だけでなく生徒同士にもあいさつの量が増えてきている。豊かな表情であいさつができるようになった。
- (2) 授業における実践では、人権に対する知識の理解に努めるとともに、生徒の人権意識の高揚を図ることができた。
- (3) 人権メッセージは自分の人権に対する考えを深めるばかりではなく、周囲の思いや考えを知るよい機会となった。
- (4) 生徒指導における実践では、定期的な調査を行うことによって、児童や学級の実態を把握し、言葉かけや指導を行うことができた。

II 今後の課題

授業によって生徒の人権意識が高まったのは確かだが、日々の生活の中からそれを意識づけることの必要性を感じる。人権を大きなものとしてとらえるものではなく、自分の生活の中に存在して身近なものとして常に考えていき、行動していくような授業の実践を今後は推し進めなければならない。あいさつ運動によって、以前よりあいさつや返事を積極的に気軽に行うことができている。しかしまだ不十分であり、今後も継続的に続けていく必要がある。

III 人権コーナー設置の様子

